

札幌学院大学社会情報学部紀要『社会情報』の刊行要領

1991（平成3）年10月24日
社会情報学部教授会制定

1. 札幌学院大学総合研究所は紀要『社会情報』（“Social Information” Journal of the Research Institute of Sapporo Gakuin University; ISSN 0917-673X）を年2回発行する。
2. 紀要に投稿できるのは社会情報学部 に在籍する教員および編集委員会が適当と認めた場合とする。ただし、共著者および依頼原稿の場合はこの限りではない。
3. 投稿論文などの専門分野は社会学・情報学に関する分野を中心とするが、社会情報学部 に在籍する教員が専攻する他の分野も含まれる。
4. 紀要は邦文または欧文で書かれた原著論文（Original Article）、試論（Research Note）、短報（Short Article）、総説（Review）、研究会報告（Symposium Report）、その他を掲載する。その内容は未公開のものとする。
5. 紀要に掲載された論文などの著作権（copyright）は原則として札幌学院大学に帰属する。紀要の発行者には札幌学院大学総合研究所があたり、編集は編集委員会が行う。
6. 投稿原稿は横書きとし、原稿の長さは図表を含め20字（欧文40ストローク）×20行詰で60枚（刷り上がり15頁）を限度とする。これを超える長い原稿の掲載の可否についてはそのつど編集委員会で決める。
7. 編集委員会は受け付けた原稿を審査し、掲載の適当・不適当を決める。原著論文については本学内外の適当な専門家（2名）に査読を依頼し、原稿掲載の適否について意見を求める。また、編集委員会は投稿原稿について著者に修正を求めることがある。編集委員会が掲載適当と認めたとき、原稿受理の年月日を記録し、著者に通知する。掲載不適当と認めた原稿については、編集委員会はその理由を明らかにした文書を著者に送り、了解を得たうえで原稿を返却する。
8. 印刷校正の初校は著者が行う。校正で原稿と著しく異なる書き替えをしてはならない。再校以後は原則として編集委員会が校正する。

附 則

この要領は、1991（平成3）年10月24日から施行する。

附 則

この要領は、1995（平成7）年5月18日から施行する。

附 則

この要領は、2008（平成20）年10月23日から施行する。

附 則

この要領は、2012（平成24）年11月15日から施行する。

紀要『社会情報』原稿執筆の手引き

1991（平成3）年10月24日制定

1996（平成8）年6月20日改訂

社会情報学部紀要編集委員会

1. 原稿は横書きで、おおよそ以下のように執筆する。

- ①題 名：邦文と英文で書く。欧文原稿のときはその言語で書く。
- ②著者名：氏名・所属を邦文と英文で書く。欧文原稿のときはその言語で書く。
- ③要 旨：邦文200～500字。原著論文のみは邦文・欧文原稿とも要旨を英文で書く。
- ④本 文：邦文原稿は文体をひらがなと漢字による口語常態とする。
- ⑤謝 辞：できるだけ簡潔に書く。
- ⑥ 注：注は、本文中の該当箇所の右肩に(1)(2)(3)……の番号を順に付し、対応する注自体は、本文の後に(1)(2)(3)……の番号順にまとめて記述する。
- ⑦参考文献：本文と注とで言及する参考・引用文献、研究内容に関連のある文献等は、著者の姓のアルファベット順に並べたリストを作成し、論文の末尾に掲載する。

a) 文献の表記法

雑誌論文の場合

著者姓名（西暦発行年）「論文名」『掲載誌名』巻・号：頁

または、著者姓名（西暦発行年）「論文名」編集姓名『収録書名』出版社：頁

単行本の場合

著者姓名（西暦発行年）『書名』出版社

- b) 同一著者の場合には、発行年の古いものを先に、新しいものを後にする。同一著者が同一年に複数の文献を出している場合には、1996a, 1996b, 1996c……のように表記して区別する。

- c) 翻訳書には原著書名を付し、原著書と翻訳書の双方の発行年を明示する。

- d) 欧文の書名、雑誌名はイタリック体で表記する。

雑誌論文の例

Feldman, J. and Gries, D. (1968) Translator writing system, *Comm. ACM*, Vol.11, No.2: 77-113

森岡清美（1988）「女性ライフコースの世代的葛藤」『社会学評論』Vol.39, No.3: 6-9

単行本の例

Fiske, J. (1987) *Television Culture*, Methuen

田中 一（1988）『研究過程論』北海道大学図書刊行会

Tönnies, F. (1887) *Gemeinschaft und Gesellschaft*; Grundbegriffe der reinen Soziologie, 8. Aufl. 1935, Wissenschaftliche Buchgesellschaft = (1957) 杉之原寿一（訳）『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト——純粹社会学の基本概念——』（上・下）岩波書店

- ⑧文献注：文献注は「⑦参考文献」のリストへの参照指示という形で記述する。本文や注の該当箇所に（）でくくって、著者の姓、文献の西暦発行年：該当頁番号（引用の場合）を記してリストの該当文献の参照を指示するという形式をとる。

例

（森岡，1988）

（Feldman & Gries, 1968）

（田中，1988：25-27）

（Fiske, 1987：58）

翻訳の場合「＝」記号を用いる

（Tönnies, 1887 = 1957：34）

2. 図・表の作成

図はそのまま製版できるよう仕上げる。写真は一般には階調の整ったもので、光沢紙にプリントしたものを用意する。表も場合によってはそのまま製版できる原稿とする。

ともに刷り上がりの希望縮尺を欄外に鉛筆で記すこと（何分の1ではなく横幅00.0cmと書く）。紀要の印刷紙面は、縦20cm、横15cmで、本文は通常2段組みである。したがって、一般の図表は刷り上がりサイズ（横幅）は本文の1段（横幅7cm）または2段（横幅15cm）を超えぬように作成するのが望ましい。

図（写真を含む）・表は、図1および表1のような通し番号と簡潔な説明文をつける。図表の挿入箇所は本文の右欄外に赤字で指示する。

3. 原稿の作成

原稿はワードプロセッサで作成し、A4版の用紙に40字（欧文80ストローク）×40行にプリントする。図表の説明文は別にまとめて番号順にプリントする。必要ならば原稿に活字体（イタリック，ボールド，スモールキャピタルなど）を赤線で指定する。原稿の長さの制限は図表を含み原則として15枚（刷り上がり15頁）である。

4. 原稿の投稿

本文・図表（オリジナル1部，コピー2部）および本文を入力したフロッピーディスクを一括して大型封筒にいれ，その封筒に『投稿カード』を貼りつけ，所定欄に記入して編集委員に提出する。著者校正のとき原稿が返却されないで，投稿者は原稿のコピーを手許に残しておくこと。